

第三者からのご意見

本報告書はムラタの初めての統合報告書です。日本を代表するリーディングカンパニーのムラタが統合報告書の発行に舵を切られたことについて、高く評価したいと思います。サステナビリティ活動と経営活動を有機的に連携することが、統合報告の課題ですから、その目的を今後も継続的に追求されることを希望します。

サステナビリティ活動と経営活動を連携させる鍵は経営理念です。ムラタの報告書でも社是(経営理念)が冒頭に掲げられ、その精神が生かされています。特に重要なのは、トップメッセージでも強調されているCSとESを中核とする価値観です。顧客と社員の満足を高めることで、企業成長を目指すという理念が明確であることが、ムラタの統合報告でも中心となっており、全体的な一貫性が維持されていることは、評価されるべき点です。

統合報告書で一番難しいところは、その対象となる価値とは何かという問題です。それが財務的な価値と一緒にあれば統合報告書の意味がないので、財務的な価値プラス α が重要です。ムラタの場合は、それがCSとESという関係になっていると思います。今後は、このような新たな価値をKPI(Key Performance Indicator)としてどのように評価していくのが、課題になってくると思います。

また報告書では、ガバナンスについて非常に詳しく開示されていることも評価できると思います。特に、社外取締役のメッセージが掲載されているのは珍しく、社会的な存在である企業にとって、大変意義のあることだと思います。今後は、このような意見が、どのように経営に反映されていくのかをフォローされれば、非常に意義のある報告書になるでしょう。取締役がどのようにサステナビリティの問題に向き合うのか、社会が注目しています。

今年は、統合報告1年目ですので、これから充実させていくべき課題もあります。たとえば、トップメッセージでも言及されているSDGsへの対応は、日本企業全体にとって重要な課題となっています。また、リスクマネジメントについては詳しく書かれていますが、ムラタにとってのリスクと機会をどのようにとらえているのかについての記述も充実させるべきでしょう。さらに、柔軟な働き方については、ムラタの強みでもあると思いますので、もっと記述を充実させることも一案と思います。今後のさらなる発展を期待しています。



神戸大学大学院
経営学研究科 教授

國部 克彦